



No.46

1998年11月発行

新潟県支部報

『市街地で繁殖するアオバズク』

上越市 後澤 正知

上越市稲田にある諏訪神社のケヤキの巨木にアオバズクが営巣している。神社は私の家から1.6キロほどの所にある。1995年にこのアオバズクの観察をはじめてから今年で4年目で、雛は1995年4羽、1997年0羽（渡来し交尾行動は見られたが繁殖しなかった）、1998年2羽が巣立った。

毎年4月下旬になると初鳴きが気になり、境内に足繁く通うようになる。初鳴きにはじまりペアの形成、交尾、産卵、抱卵、孵化、子育て、雛の巣立ち、そして10月上旬の渡去までアオバズクとの付き合いは約6ヵ月におよぶことになる。そこには四季の移ろいの中で、アオバズク一家の固い絆で結ばれた生活があ

り、いろいろな行動と生態が見えてくる。

観察中に出会う神社の宮司さん一家及び周辺の人達も「フクロウの声はよく耳にするが姿

を見たことはないですよ」。初めて見る姿に「この鳥が鳴いていたんですか」。「ああかわいい!!」。愛着がわき、その行動と生態のこ



進む幹の枯れ込みと広がる葉蔭のない空間

とが話題になり次第に虜になって行く。

アオバズクが繁殖するための条件は、営巣ができる樹洞があること、夏の日差しをさえぎるこんもりとした葉蔭があること、子育てに必要な餌があることの3点である。気掛かりなことは年々悪化する生息環境であり、高さ35メートル、胸高径3メートルの営巣木の幹が枯れ込み、これにともなって葉蔭のない空間の広がりが進んでいることである。すでに境内南西側にある19本の杉木立がすべて立ち枯れしている。雛が巣立ってから時に使用する参道脇の杉8本が、今年になって切られてしまった。市街地であって、アオバズクが繁殖できる諏訪神社の森は貴重である。今後も繁殖を見守っていきたいと思っている。



アオバズクが営巣するケヤキ

1997年のワシタカの渡り一斉調査結果について

長岡市 末 崎 朗

調査結果

昨年(1996年)の9月21日に会員の方に呼びかけて、ワシタカの渡りの一斉調査を行いました。遅くなりましたが、その結果を報告させていただきます。昨年の秋は天候の不順な日が多く、なかなか渡りが見られませんでした。調査の前日(9月20日)には、支部報で報告したように大規模な渡りが見られ、大部分のワシタカが渡ってしまったのではないかと考えられました。さらに当日の天候がくもり時々雨と恵まれなかったため顕著な渡りは見られませんでした。表1に示した6箇所を調査を行っていただきました。この中で、長岡市八方台、小千谷市山本山、守門村大倉、川西町白倉峠は距離的にも近く、同時に観察を行えば渡りのつながりが分かるのではないかと期待をかけた場所でした。しかし表1のとおりで期待したような結果とはなりません。私が想定したルートとしては、長岡市の八方台や守門村大倉を通過したワシタカが小千谷市山本山を通過して川西町白倉峠に至るものでした。(図1参照)上昇気流をつかまえながら帆翔を繰り返すワ

シタカが時速何kmで渡るかははっきりしません。八方台から山本山まで直線距離で約17.0km、大倉～山本山間は約14.2km、山本山～白倉峠間は約10.7kmなのでどの区間もせいぜい30分程で飛んでしまうと思われそうですが、観察できたワシタカの種類と時間帯が結び付くと考えられるのでデータはほとんどないようです。これについては調査日に渡ったワシタカの数が少なかったためかもしれませんが、ワシタカの渡りが今まで私が推測していたような単純な線で結べるようなルートがあるわけではないという可能性が高いと思われまます。ちなみに大規模な渡りが見られた9月20日の午前中の小千谷市山本山と川西町白倉峠の観察結果は表2のようになりました。この日は逆に山本山を通過した個体が多すぎて、渡りを結び付けることが難しいのですが、いくつか結び付けることができると思われる記録もあります。しかし、それぞれの個体数を見ると山本山がサシバ444、ハチクマ145であったのに対し、白倉峠はサシバ98、ハチクマ38と1/4程度であるため、強く結び付いた渡りのルートがあるとは言えないと思います。後でこの日、山本山で観察していた人に聞くと、山本山を通過したワシタカは西に向かって、つまり白倉峠より北側に向かって飛んで行った個体が多かったとのことでした。また、白倉峠を通過した個体も西側の高柳・松代方面へ向かう個体と南西側の津南方面へ向かう個体があり、渡りのルートが単純でないことを示していると思います。

渡りのルートについての考察

図らずも昨年のような形で一斉調査を行っても、渡りのルートを結び付けることは難しいという点は、はっきりしてきたようです。昨年の調査に協力していただいた方には申し

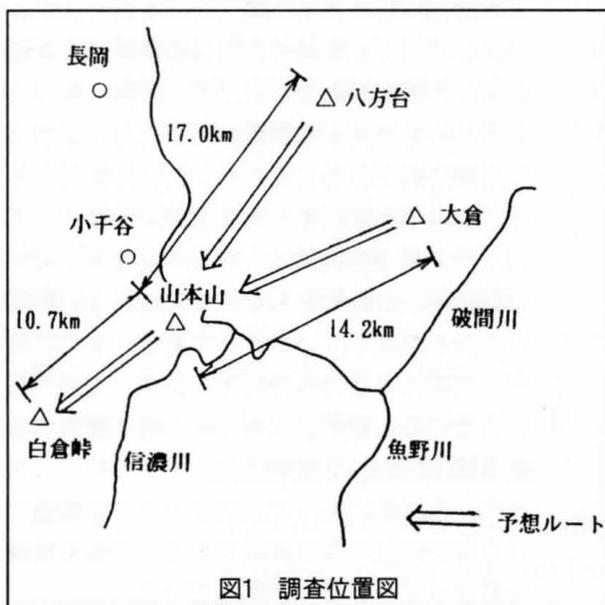


表1 1998年9月21日 一斉調査結果

調査地	長岡市 八方台	守門村 大倉	小千谷市山本山	川西町 白倉峠	
調 査		9:06ハチクマ1 サシバ 1 ツミ 1			
		9:15ハイタカ1 9:45ハチクマ1 10:02ハイタカ1			
			10:31ハチクマ1	10:43ハチクマ1 10:47サシバ 3 10:48ハチクマ1	
		10:48大型sp. 1 10:50大型sp. 1	10:51ハイタカ1	10:49ハチクマ2 サシバ 4 10:54サシバ 1 10:55サシバ 1 10:56サシバ 3 10:58ハチクマ1	
		10:55ハチクマ2		11:04ハイタカ1 11:07サシバ 1	
	結 果	11:00ハチクマ2		11:11ハチクマ3 11:12ハチクマ1	11:08サシバ 2 11:12ハチクマ1 11:14サシバ 1 11:16サシバ 2 11:17サシバ 1
		11:10ハチクマ4	11:12ハチクマ1	11:19サシバ 1 11:22サシバ 3 11:27サシバ 1	11:19サシバ 3 11:22ハチクマ5 サシバ 3 11:45ハチクマ1 11:52ハチクマ1
		11:13ハチクマ1		16:20チョウゲンボウ1	
	計	7	11	12	39

※中条町櫛形山では8:10~12:00の間1羽も渡らず。

青海町大平峠では10:45ハチクマ1、10:51ハヤブサ1でした。

表2 1997年9月20日午前の観察記録

小千谷市山本山				川西町白倉峠			
時間	サシバ	ハチクマ	その他	時間	サシバ	ハチクマ	その他
7:30				8:25	3		
	213	53		8:52	16	5	
				8:54	2		
9:00				8:58	4	1	
9:05	11	2	ハイタカ1	9:02	18	3	
9:10	2			9:11	6		
9:17			ハイタカ2	9:19	4	3	
9:19	1						
9:21	1	1					
9:22	18		ハイタカ2				
9:27	16	1					
9:28		4					
9:30	1						
9:35	30	10		9:36	1		
9:40	1			9:38	1		
9:41	1			9:40	2		
9:42	3						
9:43	1			9:43	2	1	
9:44	10						
9:45	16	1		9:45	1		
9:49		1		9:48	2	4	
9:50		1					
9:51	1	9		9:53	3		
9:56	6			9:58	9	2	
10:01	1		ハイタカ2				
10:05		8		10:05	2	1	
10:10		2	ハイタカ2				
10:11			イヌワシ1	10:12	3		
10:13		3		10:14		8	
				10:16	1	1	
				10:17	2	1	
10:20			ツミ1	10:20	2	4	小型sp. 1
10:25	47			10:23	10	2	
10:29	2						
10:31		2		10:30		1	
10:35	3						
10:36	1						
10:40			ハイタカ1				
10:43		6	ハイタカ2				
10:46	3	17					
10:49	2						
10:50	1	3					
10:53		1		10:52	3	1	
10:59		1					
11:00	6						
11:01		1	大型sp. 2				
11:11	17	2					
11:12	1		ハイタカ1	11:12	2		
11:15	23	1					
11:18		1					
11:19			ハイタカ1				
11:22		2	イヌワシ1				
11:23		1					
11:37	5						
11:51		11		11:55	1		
				11:56	1		
計	444	145	その他20	計	98	38	その他 1

訳ないのですがこれも貴重な一つの調査結果であると思います。1994年から調査結果を支部報に載せてもらっていますが、今までの多くの方々からの調査結果を総合すると次のような点を指摘できるとと思います。

- ①上・中越地方でサシバとハチクマの渡りがはっきり見られるのは9月中旬から10月上旬にかけてである。
- ②渡っていく方向は、南西方向が中心で、西から南にかけて飛んで行くものと考えられる。
- ③渡りは天候に左右され、悪天候が続いた後の晴天の日に顕著な渡りが見られる確率が高い。
- ④過去に多数の渡りが見られた場所は、毎年多くの渡りが見られる傾向がある。

このうち私は④に注目して見たいと思います。もし、ワシタカが全くルートを決めない渡りをしているのなら、毎年同じ場所で渡りが見られる確率ももっと少ないと思います。ワシタカは、他の鳥と違い上昇気流を利用しながら渡るという特徴があるので、決まった

場所で見られるのは何かその辺に理由があるような気がします。その点についてもう少し考えて見たいと思います。

図2は、これまでの観察記録が多い中越地区から上越地区にかけての簡略化した地形図です。これを見ると、この地域にはワシタカが渡る方向と平行な北東から南西へ向かって陵線を伸ばしている丘陵地帯がいくつもあることが分かります。長岡の東山丘陵、西山丘陵、三島町と出雲崎町・西山町との境にある丘陵などがそうです。いままでの観察からワシタカは、これらの丘陵に沿って渡っていると考えられます。これは丘陵の陵線周辺では渡るのに必要な上昇気流が得やすいことと、もう一つ陵線そのものを渡る方向の目印にしているということがあるのではないかと私は思います。しかし、この地域には、他の丘陵と同じように北東から南西方向に陵線を伸ばしているにもかかわらず、これまであまり大規模な渡りが観察されていない南魚沼と中魚沼の境の魚沼丘陵があります。魚沼丘陵がなぜワシタカの渡りの観察記録が少ないかと考える

ことも重要と思われませんが、その前にまず渡りの観察記録が多い箇所はなぜ記録が多いのかについて考えて見たいと思います。

図3は毎年多くのワシタカの渡りが観察される小千谷市山本山周辺の略図です。山本山は、その東側に信濃川と魚野川の合流点があります。したがってここより東側から渡ってくるワシタカは必ずこのどちらかの川を横切らなければなりません。図3を見ると、山本山は小千谷市から川西町、津南町へと続く丘陵から東へと張り出しており、しかも台地状にせり上がっているため川を越えたワシタカが最

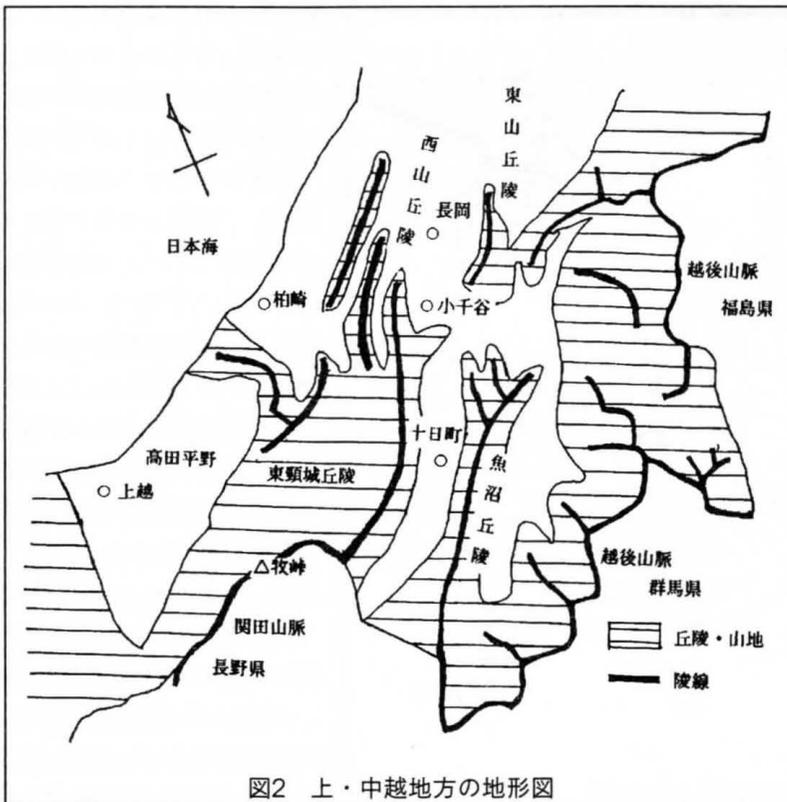


図2 上・中越地方の地形図

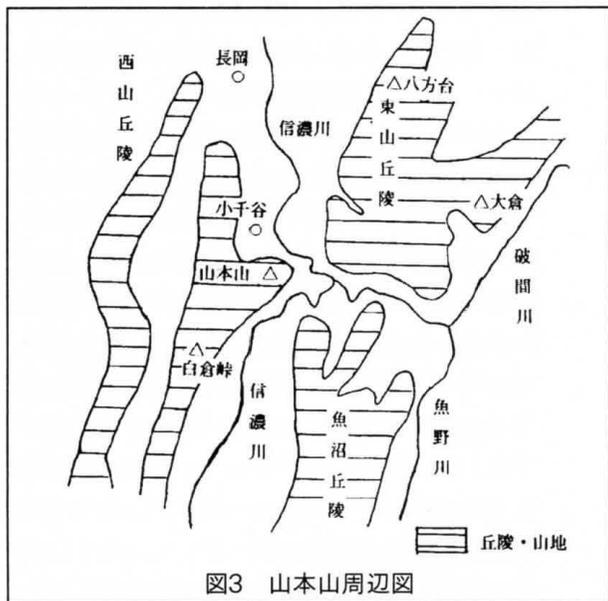


図3 山本山周辺図

初に上昇気流を得るための中継地として利用しやすくなっています。もう一つここで考えたいのは、渡ってくるワシタカの繁殖地のことです。渡ってくるワシタカの多数を占めるサシバは日本では青森県より南の低山地帯で、ハチクマはサハリンより南の低山地帯で繁殖するとされています。山本山は、北東側に山

形県より以北から渡ってくるワシタカの通過点とも考えられる東山丘陵があり、北東から東側には下田村、栃尾市、入広瀬村、守門村、広神村、山古志村などの低山帯が広がっています。つまり、山本山は、地形的にも位置的にも広い範囲からワシタカが集まってきやすい条件がそろっていると思われます。もう一つ数多くのワシタカの渡りが見られる牧村の牧峠はどうでしょうか。図2で牧峠周辺を見てみると牧峠は北東から南西に伸びた関田山脈のほぼ中心に位置しており、その北から東側にはかなりの数のサシバとハチクマが繁殖していると思われる東頸城丘陵が広がり、さらに、その北から東側には山本山や海岸部の丘陵地帯があるため、牧峠はかなり広い範囲

からワシタカが集まる可能性があります。また、その直下に切れ込む谷は深く、上昇気流が得やすい地形になっています。他の地点と比べてワシタカの観察数が多いこの2箇所は、広い範囲からワシタカが集まりやすい条件を備えていると思います。ここで、観察数の少ない魚沼丘陵について考えてみると、魚沼丘陵

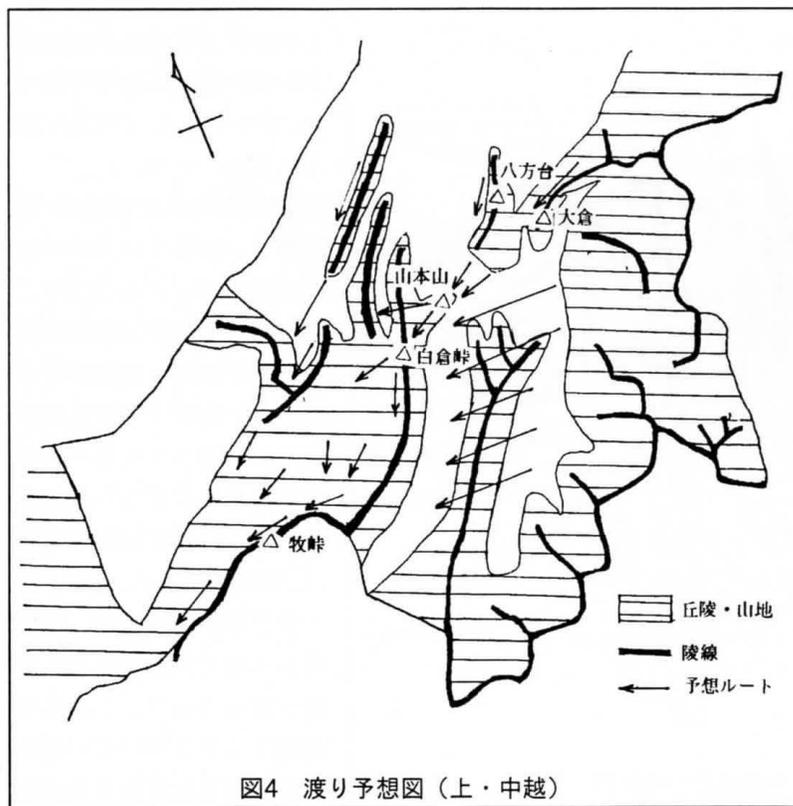


図4 渡り予想図(上・中越)

そのもので繁殖するワシタカは、ともかくとして、北側に広がる丘陵地帯のワシタカの多くは山本山方面へと渡って行くと思われ、東側の魚野川沿いの平野部は広く、上昇気流を得にくいというに、その東側にある越後山脈は2,000m級の高い山が連なっており比較的の低山帯は少なく、さらに東の群馬県や福島県から多くのワシタカが渡ってくるとは考えにくいと思います。このように条件に恵まれた地点のワシタカは分散して渡っているか、もしくは渡るのに都合のよい上昇気流を求めて1羽1羽が自由に渡っているのではない



川西町白倉峠のタカ柱 (撮影：黒鳥善助氏)

かと予想できます。事実、他県でもたくさんのワシタカの渡りが見られる地点の周辺では意外とそれほど多くの数は観測されていません。図4に、今までの調査結果から私が予想したワシタカ(サシバ、ハチクマ)の渡りの状況を示しました。私はワシタカは、渡る際に一定のルートをもって渡るのではなく、渡るのに都合のよい場所に集まってきては、上昇気流を求めるなどの理由から分散するというふうに、集合と分散を繰り返しながら渡っているのではないかと現在は考えています。したがって、たくさんのワシタカが見られる場所と見られない場所が存在するという推測です。実際1998年度の観察結果も山本山と

牧峠の観察数は他の地点より飛び抜けて多いようです。(ただし、これは観察日数の違いも

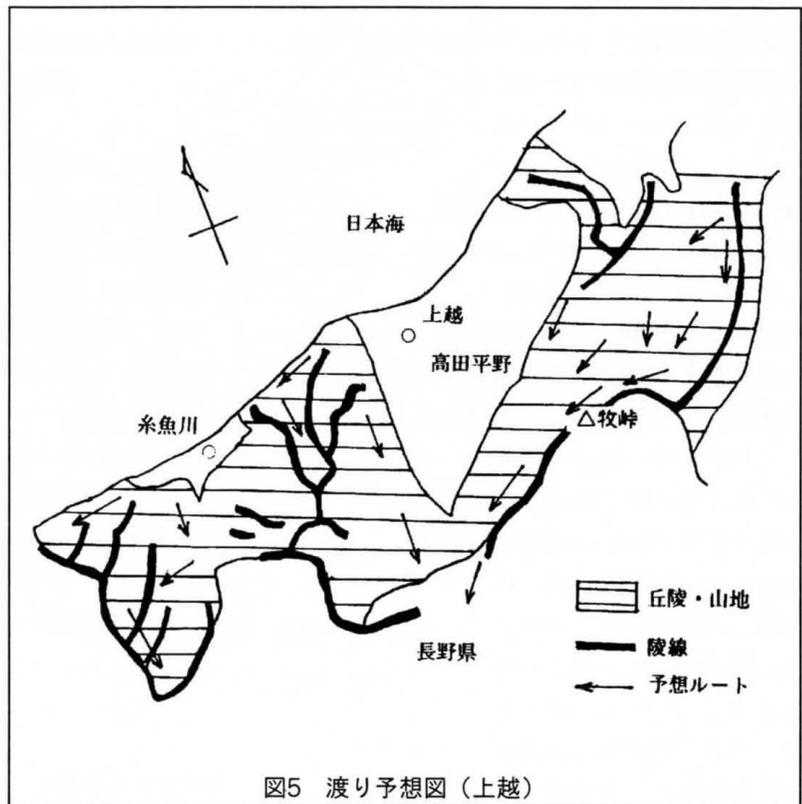


図5 渡り予想図(上越)

もあるかもしれません)このような私の仮説に基づいて考えると平野部であり渡りが観察されない点や西頸城地方でありまとまった渡りが見られない理由も説明がつくような気がします。平野部では連続して上昇気流を得にくいのに、林も少なく天候が悪い時に休息もしにくいと考えられます。そう考えると西頸城地方の東側から渡ってくるワシタカは関田山脈に沿って長野県側に渡り、西頸城を通過しない個体が多いのではないかと推測できます。また、西頸城地方は海岸部まで山が迫っており、海野近くでも上昇気流は得やすいというえ、その陵線は複雑で様々な方向へと伸びており、ワシタカが分散しやすく中越地方ほど渡りを観察するのに適した地形ではないという感じがします。(図5)実際の観察記録でも南の長野県に向かう個体と西の富山県に向かう個体がいるようです。

以上、長々と私個人の推測を綴ってきましたが、当然間違っている部分も多いと思います。私の推測と異なる考えや観察結果がありましたらぜひ聞かせてください。最後に1997年度の一斉調査に協力していただいた下記の皆様に心からお礼を申し上げたいと思います。大変ありがとうございました。

調査に協力していただいた皆様

(敬省略、順不同)

立野政信、長谷川誠、末崎興助、中山正則、久保田健彦、久保田千華子、桑原哲哉、柳瀬昭彦、黒島善助、笠原勇一、野紫木洋

酔っぱらいのさえずり

柏崎市 小林 成光

酒に酔うと笑いだす人もいれば、泣き出す人もいる。怒りだす人もいれば、口説きだす人もいる。無口になる人、踊りだす人、歌う人、けなす人、おおぼらの人、いやでも合わせる人、ただただ聞き役の人、様々だ。

当然その時の体調、メンバー、環境、料理や酒の種類にもよって酔い型は違う。型は違うが、酔っぱらいは一生懸命さえずっている。

家族の観察によると、私の酒の酔い型は、にぎやか、にわか講釈士タイプらしく、それも日本酒を飲んだ日は最悪で、バタンキューで翌日何にも覚えていない事が多いとのことだ。

宴会などで夜遅くなる日、娘どもは気配を感じて「お母さん、そろっと爺さんが帰ってくるとウルサイから早く寝ようヨ」となる。ちなみに「お母さん」とは私の妻であり、「爺さん」とは私のことである。つまりお母さんと爺さんは夫婦なのだ。

言葉を慎めバカヤロー!

先日、気の合った仲間と一杯飲んだ。全員来年は兎(うさぎ)年だと言うが、私は酉(とり)年だと主張した。小生曰く「来年は鶴と鶯でうさぎ、実はうさぎは鳥なんだ。その証拠にうさぎは1羽2羽と数えるだろうが!」

それですっかり話が盛り上がり、後は数え方の話題になった。「じゃあ、イカは何だ? 刀は何だ? タンス何だ?」といろいろ出た。

M氏が「じゃあ爺さん婆さんはどう数える?」と自慢げに言った。それにはみんなが参ってしまった。降参するとM氏は「爺さん婆さんの数え方は、一棺、二棺」

ムムッコのオオバカヤロー!

平成10年度 春の総会と翌日の探鳥会に参加して

新潟市 渡邊リエ子

5月16・17日、西頸城郡青海町セミナーハウスで、毎年楽しみにしている新潟県支部総会・研修会・探鳥会が開催されました。

平成7年 妙高での総会に初めて参加致しましたが、笹ヶ峰での探鳥会の感動が忘れられず、その後、日程の許す限り参加させて頂いております。

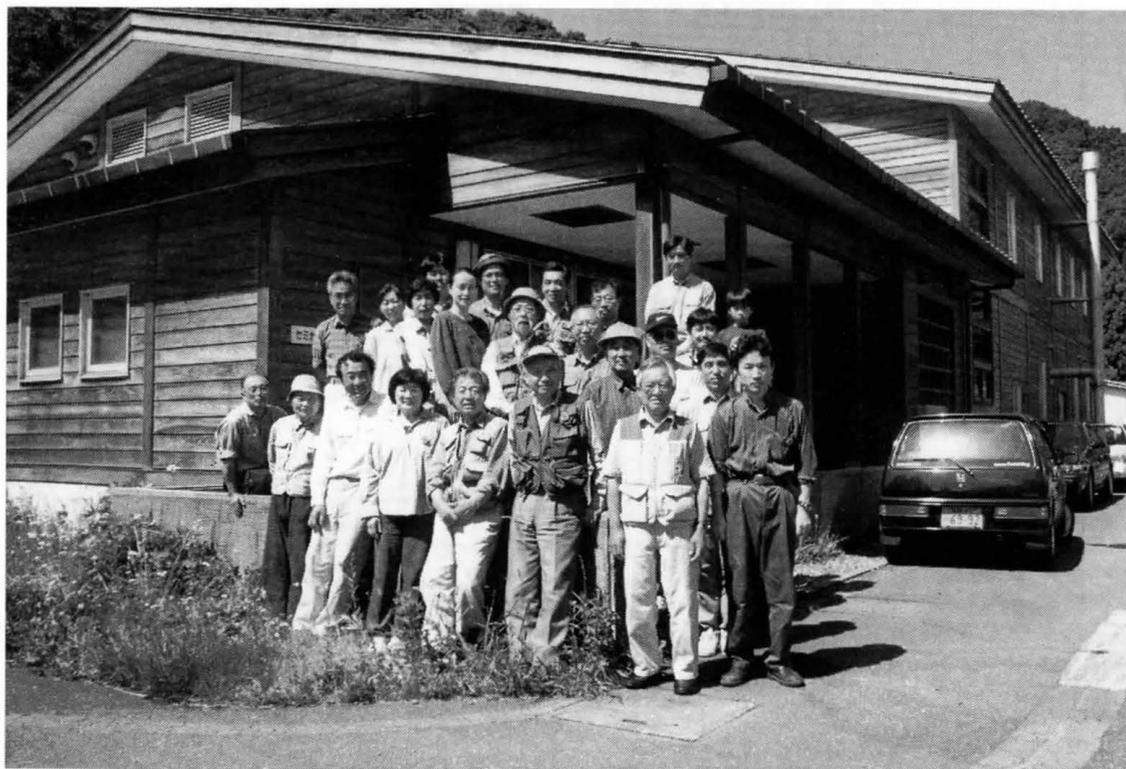
スライドを併用しながらの研修会講演はビギナーである私にとりましては、総てが新鮮で驚きでもあり、通常の探鳥会では経験できない事です。

今回も総会の次第が順調に進み、引き続き研修会が開催され、演題は、山本明先生の『メジロ亜種の識別』、笠原勇一先生の『西頸城地方(能生町を中心に)鳥類相の特徴』それに、野生の動物の研究者として(日本を代表される権威者)野紫木洋先生による『西頸城のワシタカの(分布繁殖状況)』など、貴重な時間

となりました。その後、夕食に引き続き和やかな懇親会が開催され、夜半過ぎまで野鳥や野生動物の話等々で盛り上がりました。

翌日朝4:00起床。身支度をしながら、今日はどんな鳥たちに会えるだろうか、先年、笹ヶ峰で出会って感動したオオルリも出てくれるだろうか。朝の陽に映えたオオルリの美しさ、口を精一杯大きく開けて自己主張しているかのように全身で轉る姿に感動で目頭が熱くなる思いをした事、など思いを巡らせながら4:30玄関前に集合。夜来の雨も夜明けと共に小降りとなり、探鳥日和になることを祈りつつ出発です。

セミナーハウスから車に分乗して3.5km程の倉谷を基点に探鳥観察が開始されました。倉谷沿いの林道は私にとっては、やや急な上りでしたが、フォッサマグナの特徴といわれている急峻な溪谷美を愛でながらキツネの足跡



を見たりカモシカも出てくれることもあるなど解説を耳にしながら、爽やかな風を頬に受けて3~4kmばかりゆっくり探鳥を楽しむことができました。

森の木々の間からは耳に心地よい野鳥の囀り。何時も思う事ですが、これを聴き分けられたらどんなに素晴らしい事でしょう。ベテランの方々囀りの方角を的確に捉え、驚く程の正確さでフィールドスコープに収めて下さり、オオルリも、それに声はすれども姿をなかなか現わしてくれないウグイスも間近で観察する事ができました。

次の探鳥地・田海ヶ池に向かう頃には抜けるように澄んだ青空が広がり、絶好の探鳥日和となりました。

田海ヶ池を見ながら樹木が生い茂る池の畔を巡りながらの探鳥で、途中、野生の茗荷、湖畔の花々、山野草を楽しみながら野鳥観察小屋からの帰路、ミサゴが獲物を捕え松の梢で、盛んに貪っている光景が観察できたのは、初めての体験でした。

「多くの鳥たちよいつまでも元気で生き続けてネ」と心で話し掛けながら探鳥地を後にし、8:05宿舎に入りました。野紫木先生の奥様方によるお心づくしの朝食をご馳走になり、9:00から「探鳥会の纏め」、「事務局報告」、記念写真の後9:30無事散会となりました。当日観察された野鳥は別添の通りでした。

野鳥の会に入会して、探鳥の素晴らしい感動、楽しさに加えて各先生方による講演のお話しの中から、「自然界の生物サイクルをこわさず

に残す事」の大切さを痛感しながら更に大きく視野を広げることができました。

日頃ボランティアで活躍なさっておられる役員の皆様方に心から感謝致します。又、ご参加の会員の皆様、ほんとうにありがとうございました。

私と『鳥』との関わりについて

私と鳥との関わりは、カナリヤを飼っていた事から始まります。毎日の鳥かご掃除の際かごから飛び出して、カーテンレールを止り木として、口を精一杯開けて囀り、人の頭上をかすめて飛び回ったり、指にも止まり、電話のベルが鳴ると私より先に電話機の傍に待ち構えて、会話が始めると耳をそば立てているかのような仕草で口元を見上げ、話し終わるとサーッと飛び去ってしまう。「ピピ」と呼ぶと返事をするように囀りだすという面白い小鳥で、家族同様の一員として11年間を過ごしました。その鳥が突然亡くなった頃に前後して事務局の本間由紀子さんから『野鳥の会』の活動のお話しをお聴きして、初めて団体の内容を識る事ができました。

このような事があって、「家で小鳥を飼うのはもうよそう。自分から山野に出掛けて、自然の中で野鳥との出会いを楽しむことにしよう」と『日本野鳥の会』新潟県支部に入会させて頂き現在に至っております。今後も皆様のご指導をお願い致します。

別添資料 H.10.5.17 確認された野鳥 (合計37種類)

(倉谷)

メジロ	ノジコ	ホオジロ	ハシブトガラス
トビ	ヤブサメ	オオルリ	コルリ
ヒヨドリ	キジバト	アオゲラ	コゲラ
ウグイス	サシバ	ヤマガラ	ホトトギス
キビタキ	カケス	キセキレイ	アオバト
ハリオアマツバメ	アマツバメ	クロツグミ	カルガモ
ツツドリ	マガモ	カワガラス	イカル
シジュウカラ			

(田海ヶ池)

サンショクイ	ミサゴ	オオヨシキリ	ハシボソガラス
スズメ	ハクセキレイ	イワツバメ	ツバメ

晩秋の朝日池探鳥会

上越市 土田 宏

1998年11月8日、新潟県支部主催の探鳥会が大潟町の朝日池で行われました。上越地区の定例探鳥会も合同参加、当日は8時過ぎまで土砂降りの雨で、参加しようか止めようかハムレットの心境でいつも行動を共にする小股さんと相談の末とにかく行ってみるだけでもと出かけたのでした。

なんと、開会の9時雨は上がり10時には青空も広がり鳥合わせの11時には雲ひとつない青空、太陽の恵で暑くさえ感じる最高の探鳥日和となりました。

池には要所要所に無粋な釣り人がいてチャームポイントとなっている枯れ木に一羽も鳥が寄り付かないという悪条件もありましたが、10時過ぎには食事を終えたヒシクイが三三五五戻ってきて池も賑わいを見せました。群れのなかには、マガンの鼻の白いものまだ白さのない全体に黄色の嘴のものもまじっておりました。その上オオヒシクイとはサイズのひとまわり小さいヒシクイが並んでいて今まではヒシクイと言っていたのがオオヒシクイで小さいほうがヒシクイだということを知って驚きました。どんどん帰ってくるので全体でどれくらいの数になったのか不明でしたが、大きさと尾の白さの美しいヒシクイに見とれておりました。

カモの仲間もマガモを中心として、各種出



揃い目を楽しませてくれました。上空を見上げればハヤブサが時折訪問してくれカラス軍団とチャンチャンバラバラ。この一戦を見ていたら、それに追い出される形でコミミズクが上空へ舞い上がりその翼下面の白い模様をはっきりと見せてくれました。普段はうるさいと思うだけのカラス軍団もたまには役に立つものだと言っておきます。

なお、未熟者の自分はあっちに出たこっちに出たという声で、その後を追いかけて確認するようお願いの探鳥スタイルですが、ベテランのメンバーは池の背後にある田んぼの方も見ていて、その中で小鳥達もしっかり観察しておられ、最後の鳥合わせの時には全然自分が見ることも聞くこともできなかった各種の鳥が出たとの報告。どうも何年たっても自分から見ることでできる鳥達は増加してないなあ！との感想も味わった探鳥会でもありました。

当日の参加者は上越地区の人達が24人全体で40人ほどの参加、出現してくれた鳥達は47種ということです。当日配布された過去の8年間の記録を上回る最高記録でした。とても素敵な探鳥会に参加できて感謝でした。



平成10年度

第5回中部ブロック会議参加報告

事務局

例年、初夏や晩秋に開催されていた中部ブロック会議が今年は盛夏に開かれることになった。鳥を見るのに夏の時期はどうかと思っていたら、石川県支部から詳しい案内が届いた。今回は3月に行われた本部評議員制度の改正を受けて、ブロック推薦の評議員とブロック推薦理事の選出という重要な議案が用意されているため、協議を中心に行い、探鳥会は設定しないという内容になっていた。

さて、今回は新潟県支部も来年ブロック会議を開催する予定もあり、例年1~2人の参加だったが、岡田総務部長、石部評議員、研究部の小野島、末崎、事務局から次長の本間と事務局長の私（桑原）の計6名が参加した。

8月1日、朝、巻ICを9:00に出発して北陸自動車道を金沢ICで降りて約5時間のドライブのあと石川県河内村に到着した。

会議は石川県支部長の挨拶のあと、自己紹介。その後協議に入った。

その結果、ブロック推薦評議員の選出について評議員制度の改正により中部10県20支部に割り当てられた評議員は6名で従来の3分の1になり、支部1名、県1名という形にはならなくなった。そこで石川県支部の提案は、甲信越（山梨、長野、新潟）2名、東海（愛知、岐阜、三重、静岡）2名、北陸（富山、石川、福井）2名とし、「理事を出す県は除く」というものだった。

様々な論議がされたのだが、結論から言うとすべての支部が都合よく納得する案はなく、原案賛成となった。ただし東海地区は会員数

が多いことから、北陸1名、東海3名、甲信越2名に決定した。また、ブロック推薦理事は回り巡から東海地区の岐阜から選出することになった。

各地区での評議員選出については3地区に別れて話し合われた結果、平成11年~13年度の評議員委員の甲信越地区は新潟と長野から選出することになった。

新潟県の評議員については佐渡支部と連絡をとり協議した結果、当支部より選出されることが決定した。また合わせて支部代表者会準備委員も当支部より選出されることとなった。

また、この評議員制度については対応が不十分と懸念され、来年度再度検討し、見直しを行うことを確認した。

夕食ではやっと堅苦しい会から解散され参加者一同リラックスし、和やかに支部、会員間での交流が進んだ。おかげで持参した新潟の地酒も一番早くなくなったように記憶している。

翌朝は各自目覚めた頃に付近を探鳥、散策をして、2日目の支部報告が行われた。

東京など首都圏支部とは違い、中部ブロックの支部は悩みや問題点など共通した点が多く、次代を担うリーダーの育成や支部の活性化など各支部の活動に刺激されたり、参考になったりと内容のある会議であった。会の最後には次回開催支部として石部評議員からのメッセージがあり、来年への準備と楽しく充実した2日間の想いを胸に帰途についた。

原稿募集

研究発表・旅行記
珍鳥報告・詩・短歌
その他 お気軽にお寄せ下さい。

発行 1998年11月30日 No.46

発行人 大島 基 編集者 小林成光、末崎 朗、千葉 晃

日本野鳥の会新潟県支部

事務局 〒951-8116 新潟市東中通1番町86番地28

TEL 025-229-2018 本間由紀子方（振替口座）00610-1-6002